

## 2-6 浮遊粒子状物質 (SPM)

大気中に浮遊している粉じんには、工場、交通機関、家庭等から人為的に発生するもののほか、土壌の舞い上がりや火山活動など自然的な原因によって発生するものも含まれる。

浮遊粉じんのうち、粒径が $10\mu\text{m}$ 以下の粒子については沈降速度が遅く、大気中に長期間滞留することから「浮遊粒子状物質」として環境基準が定められている。なお、1981年6月に測定方法の改定がなされたことから、以前から実施していた「浮遊粉じん」から「浮遊粒子状物質」の測定への変更を行っている。

### 2-6-1 概要

2022年度のSPMの測定は、県下35市町に設置した一般局89局、自排局23局、合計112局で行った。環境基準長期的評価の対象となる有効測定局(年間の測定時間数が6,000時間以上)は一般局83局、自排局23局であった。

SPMの濃度は、一般環境大気で年平均値 $0.013\text{mg}/\text{m}^3$ 、また、道路沿道周辺大気でも $0.013\text{mg}/\text{m}^3$ であった。

環境基準達成率は長期的評価が一般局、自排局ともに100%であった。短期的評価は一般局で100%を達成したが、自排局2局(宮野木自排局、真砂自排局)で基準を超過した。

環境基準評価	短期的評価	1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ日平均値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること。	長期的評価	2%除外値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ日平均値が2日連続して $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を超えないこと。対象は年間測定時間6000時間以上の局。
--------	-------	---	-------	---

表2-6-1 2022年度SPM測定結果概要

局数	一般局		自排局	
	長期的評価	長期的評価	年平均	年最高
測定局数	89	23	0.013	0.098
有効局数	83	23	0.011	0.058
達成局数	83	23	0.018	0.196
達成率(%)	100.0	100.0	浦安猫実	福正寺
			木更津請西(車)ほか3局	真砂自排

### 2-6-2 測定結果

#### (1) 地理的分布

一般局年平均値の地理的分布を図2-6-1に示した。2022年度の測定結果は年平均値で $0.011\sim 0.018\text{mg}/\text{m}^3$ の範囲にあり、 $0.020\text{mg}/\text{m}^3$ 以上の地点は見られなかった。自排局年平均値の地理的分布を図2-6-2に示した。年平均値は $0.010\sim 0.016\text{mg}/\text{m}^3$ の範囲にあり、 $0.020\text{mg}/\text{m}^3$ 以上の地点は見られなかった。

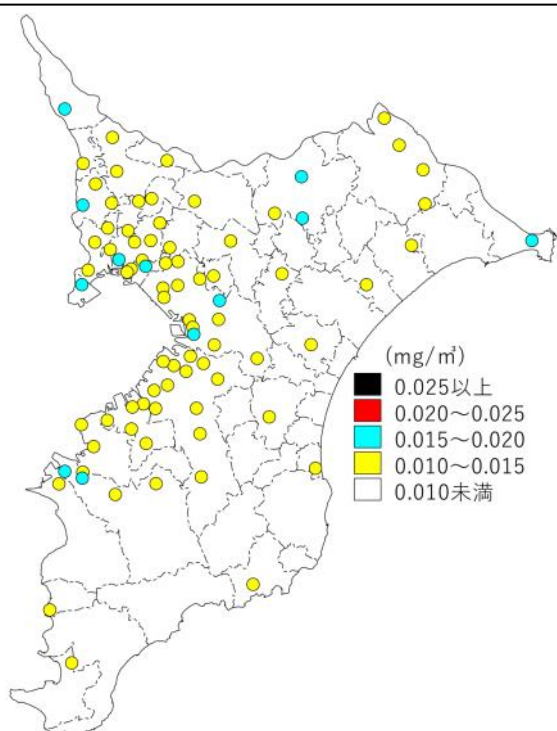


図2-6-1 SPM年平均値の分布(一般局)

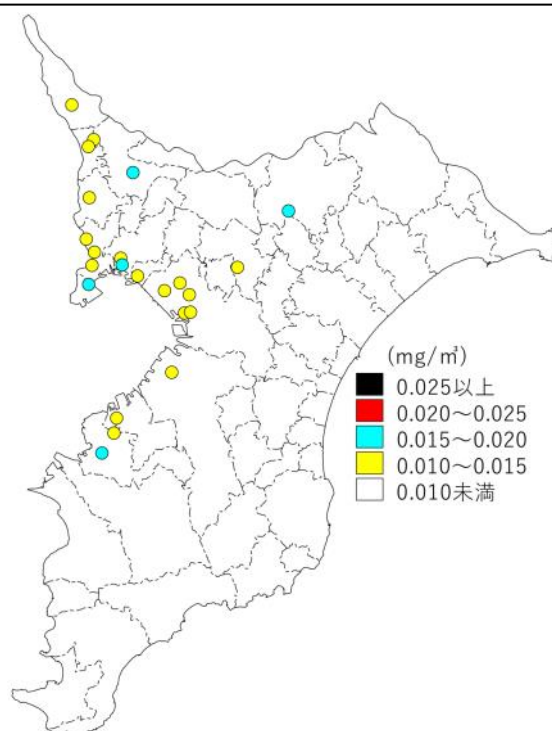


図2-6-2 SPM年平均値の分布(自排局)

年最高値の地理的分布を図2-6-3、図2-6-4に示した。一般局では0.058～0.196mg/m<sup>3</sup>の範囲にあり、0.200mg/m<sup>3</sup>を超える地点は見られなかった。自排局については0.056～0.221mg/m<sup>3</sup>の範囲にあり、0.200mg/m<sup>3</sup>を超える地点は千葉地域に見られた。

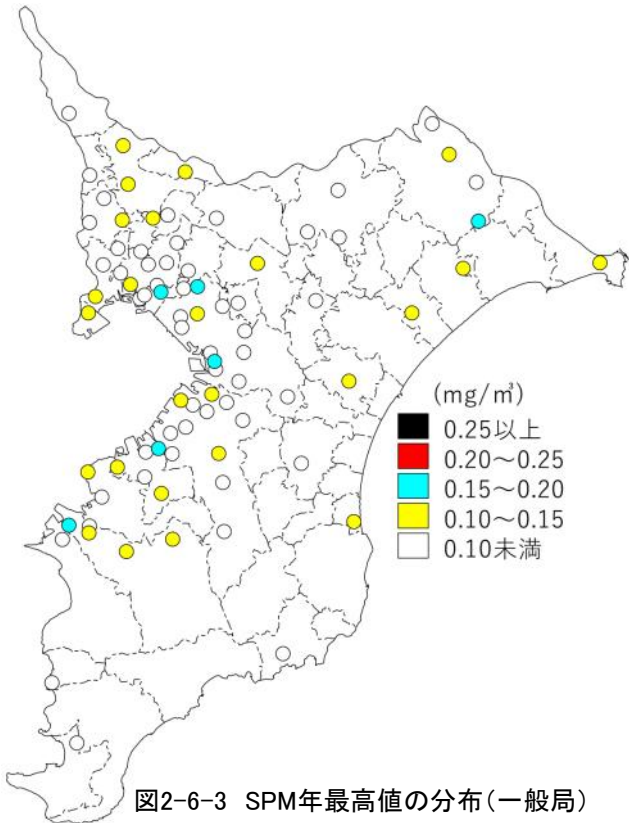


図2-6-3 SPM年最高値の分布(一般局)

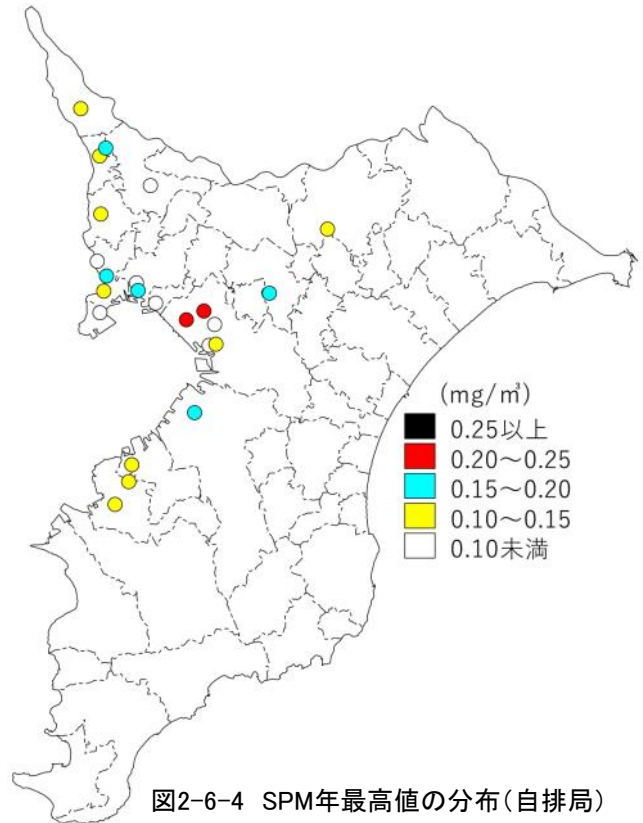


図2-6-4 SPM年最高値の分布(自排局)

### (2)月平均値の経月変化

2022年度の月平均値を2002、2012年度とともに図2-6-5、図2-6-6に示した。一般局、自排局ともに、2002年度では6月から8月にかけて及び10月から12月にかけて高くなる傾向が見られたが、2012、2022年度ではその傾向は小さくなり、年度が進むに従い、月平均値の濃度が小さくなった。

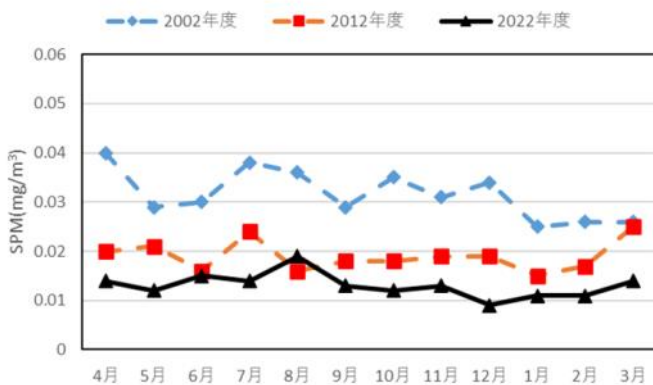


図2-6-5 SPM月平均値の経月変化(一般局)

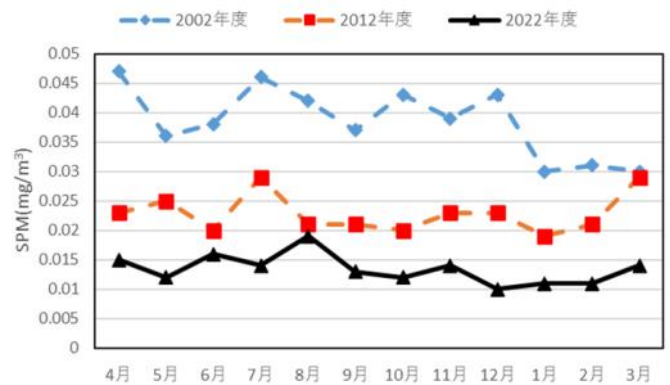


図2-6-6 SPM月平均値の経月変化(自排局)

### (3)年平均値の経年推移

一般局について、1984年度から2022年度まで継続して測定している33局を地域別に集計し、その推移を図2-6-7に示した。各地域ともに1990年代中盤頃まではほぼ横ばいであったが、その後、低下傾向を示した。野田・東葛地域、葛南地域、千葉地域が当初高い傾向にあったが、各地域とも低下した結果、地域間差は小さくなり、近年は地域間の差はほぼ見られなくなっている。

自排局について、1984年度から2022年度までの間に20年以上測定している24局を地域別に集計し、その推移を図2-6-8に示した。各地域ともに1990年代中盤頃まではほぼ横ばいであったが、その後、低下傾向を示した。地域ごとのばらつきはあるが、各地域とも低下した結果、地域間の差は小さくなり、近年は一般局とほぼ同様の値となっている。

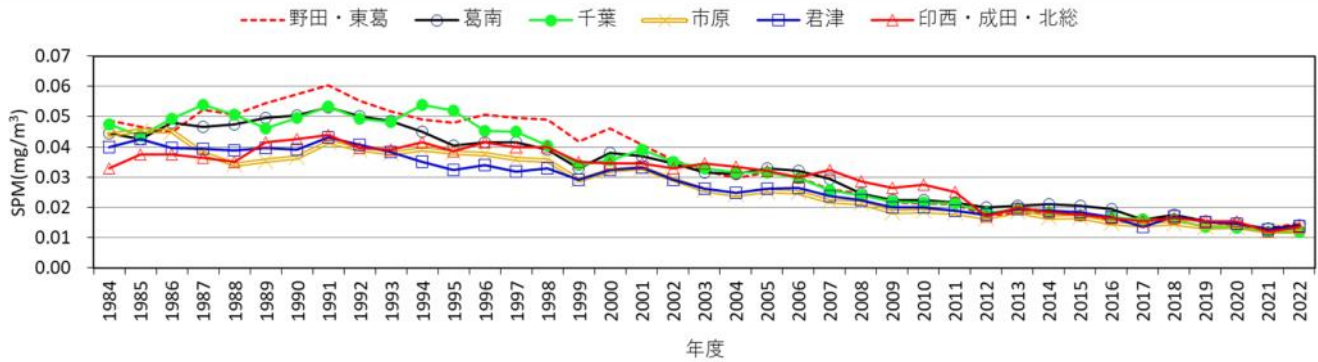


図2-6-7 SPM年平均値の推移(一般局)

1984年度から2022年度まで継続して測定している33局について地域別に集計した値を示した。

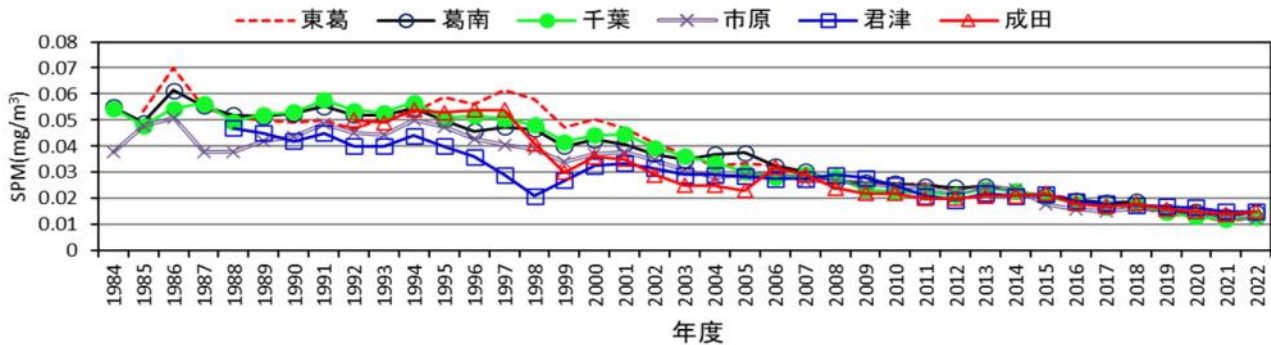


図2-6-8 SPM年平均値の推移(自排局)

1984年度から2022年度までの間に20年以上測定している24局について地域別に集計した値を示した。

#### (4) 環境基準の達成状況

SPMの環境基準の評価は長期的評価によって行う。2013年度から2022年度までの環境基準達成率の推移を表2-6-2、表2-6-3に示した。長期的評価の達成率は2012年度は、100%であったが、2013年度は一般局が85.4%、自排局は73.1%となった。これは、2%除外値が0.1mg/m<sup>3</sup>を超過したことによる未達成ではなく、2日連続して0.1mg/m<sup>3</sup>を超過したことによる未達成であった。2014年度から長期的評価の達成率は再び100%を達成し、維持している。

短期的評価基準を超過した測定局及び日時について表2-6-4に示した。短期的評価については、2022年度は一般局で100%を達成したが、自排局は、2012年度以降も全局達成とはなっておらず、2022年度は2局(宮野木自排局、真砂自排局)で基準を超過した。

表2-6-2 SPM環境基準達成率の推移(一般局)

区分/年度		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
長期的評価	達成率(%)	85.4	100.0	100.0	100.0	100	100	100	100	100	100
	達成局数 測定局数	88/103	103/103	96/96	97/97	97/97	96/96	92/92	93/93	89/89	83/83

(環境基準の評価は、有効測定局を対象とした。)

表2-6-3 SPM環境基準達成率の推移(自排局)

区分/年度		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
長期的評価	達成率(%)	73.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	達成局数 測定局数	19/26	26/26	26/26	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	24/24	23/23

(環境基準の評価は、有効測定局を対象とした。)

表2-6-4 SPM環境基準(短期的評価)超過状況

(mg/m<sup>3</sup>)

年月日	時	測定局名	測定値
2022年08月20日	20	真砂自排(車)	0.221
2022年08月27日	20	宮野木自排(車)	0.204

## (5)年平均値等の濃度上位局

2018年度から2022年度までの一般局における年平均値上位3位を表2-6-5に、年最高値上位5位を表2-6-6に示した。年平均値は、ばらつきはあるものの葛南地域、千葉地域が上位に入ることが多かった。年最高値については、年度によって上位5位以内に入る局が異なった。

表2-6-5 SPM年平均値上位3位(一般局)

(mg/m<sup>3</sup>)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値
1	八千代米本	0.034	船橋高根	0.019	浦安猫実	0.021	浦安猫実	0.024	浦安猫実	0.018
2	佐倉山王	0.022	松戸五香 千城台わかば小学校	0.018	千城台わかば小学校 木更津畑沢	0.018	木更津畑沢	0.018	千城台わかば小学校	0.017
3	浦安猫実 船橋高根 木更津畑沢 香取府馬	0.021	野田桐ヶ作 野田市野田 流山平和台 船橋高根台 木更津清見台 木更津真里谷 君津人見 銚子栄	0.017	船橋高根 木更津真里谷 成田大清水	0.017	千城台わかば小学校	0.017	銚子栄	0.016

表2-6-6 SPM年最高値上位5位(一般局)

(mg/m<sup>3</sup>)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値
1	芝山山田	0.329	袖ヶ浦代宿	0.299	匝瑳椿	0.353	習志野鷺沼	0.182	福正寺	0.196
2	習志野東習志野	0.237	山王小学校	0.241	芝山山田	0.250	袖ヶ浦代宿	0.164	袖ヶ浦代宿	0.160
3	木更津真里谷	0.225	芝山山田	0.212	袖ヶ浦川原井	0.202	都公園 四街道鹿渡	0.163	習志野鷺沼	0.155
4	富津下飯野	0.199	柏大室	0.192	船橋高根台	0.182	鎌ヶ谷軽井沢	0.157	香取府馬	0.153
5	袖ヶ浦川原井	0.196	君津糠田	0.185	土気	0.174	袖ヶ浦吉野田	0.151	君津人見	0.150

2018年度から2022年度までの自排局における年平均値上位3位を表2-6-7に、年最高値上位5位を表2-6-8に示した。年平均値については、木更津請西(車)局が1位となった。上位局における年平均値は2018年度までほぼ横ばいであったが、2019年度以降は低下している。

年最高値については、市川行徳(車)局、袖ヶ浦大曾根(車)局及び市原中川田(車)局が上位5位以内に入ることが多かった。

表2-6-7 SPM年平均値上位3位(自排局) 局名の(車)は省略。

(mg/m<sup>3</sup>)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値
1	柏大津ヶ丘	0.022	柏大津ヶ丘 木更津請西	0.018	柏大津ヶ丘 木更津請西	0.018	木更津請西	0.017	柏大津ヶ丘 浦安美浜 船橋日の出 木更津請西	0.016
2	船橋海神 葎川自排	0.021	船橋日の出 浦安美浜 葎川自排	0.017	浦安美浜	0.017	浦安美浜	0.015	成田花崎	0.015
3	市川稲荷木 船橋日の出 習志野秋津	0.020	市川稲荷木 袖ヶ浦大曾根 木更津牛袋 成田花崎	0.016	船橋日の出	0.016	柏大津ヶ丘 葎川自排 成田花崎	0.014	野田宮崎 船橋海神 葎川自排	0.014

表2-6-8 SPM年最高値上位5位(自排局) 局名の(車)は省略。

(mg/m<sup>3</sup>)

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値
1	木更津請西	0.285	袖ヶ浦大曾根	0.179	袖ヶ浦大曾根	0.335	袖ヶ浦大曾根	0.362	真砂自排	0.221
2	市川稲荷木	0.193	木更津牛袋	0.164	市原中川田	0.149	市原中川田	0.150	宮野木自排	0.204
3	柏西原	0.182	市原中川田	0.152	市川行徳	0.147	市川行徳	0.143	柏西原	0.167
4	宮野木自排	0.169	市川行徳	0.150	佐倉山王	0.140	松戸上本郷	0.139	佐倉山王	0.161
5	木更津牛袋	0.150	八千代村上	0.144	流山若葉台	0.128	市川稲荷木	0.127	市川稲荷木	0.158